

重税反対統一行動

日時：3月13日(水)



ホームページ <http://chibarouren.jp/> メール chibarouren@axel.ocn.ne.jp

第 255 号 URL 版 2013 年 2 月 28 日

発行 千葉県労働組合連合会

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センター

電話 043(225)5576 FAX 043 (221) 0138

発行人 本原康雄 定価 20 円

【1面】

3/17 投票日

知事を替えて暮らしを変えよう

2月28日告示、3月17日投票で、千葉県知事選挙が行われます。千葉労連も参加する「憲法がいきる明るい千葉県をつくる会(略称・明るい会)」は、千葉大学名誉教授の三輪定宣さんを候補者に擁立し、現職の森田健作知事と事実上の一騎打ちのたたかいに持ち込みました。私たちの奮闘如何で勝てる選挙です。私たちの願いや要求を実現するために、力を合わせて今度こそ勝利しましょう。

要求が実現する県政に

今度の知事選挙は、知事を替え、税金の使い方を変え、県民の暮らしを変える選挙です。全国第4位という大きな財政力を、医療や福祉、教育の充実、農業や地元業者を元気にするためにこそ優先的に使っていく、私たちの願いや要求が実現する県政に今度こそ切りかえる選挙ということです。

三輪定宣さんは、県内130ヶ所以上の視察や地元の方との懇談を重ねてきました。懇談先では、「しっかりと、真摯に地元住民の訴えを受けとめてくれる」と支持の輪が広がっています。すでに本来は知事がやるべき仕事にとりこんでいます。

現知事の姿勢に怒り

対して、現職の森田健作氏は、3・11大震災で県内では旭市や浦安市、我孫子市などで深刻な被害が発生したにも関わらず、知事として一切現地に足を運んでいません。少なくない県内首長から「市町村が困っているのに、現場に全く足を運ばない」と怒りの声があがっています。森田氏も、さすがにこうした批判の高まりに窮したのか「浦安は、東京に向かう際に通った」と、笑い話のような言い訳をする始末です。挙句の果てには、商工会議所が主催を予定した「公開討論会」にも、

	森田知事現県政	三輪定宣さんの県政改革プラン
原発問題	<ul style="list-style-type: none"> 「原発をなくすことは事実上困難。すぐになくすことは現実的ではない」と原発容認。 森田知事が被災地に足を運ぶことはまれ。放射性焼却灰の一時保管施設をめぐっては、副知事に対応を一任。 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉から「原発ゼロ」を発信。 「脱原発首長会議」に参加し、原発再稼働の撤回、原発からの即時撤退を求める。 放射能汚染の不安に対し、徹底した除染で子どもと県民を守る。 千葉の特性を生かした自然エネルギー政策で、新たな産業・雇用をつくる。
消費税増税	<ul style="list-style-type: none"> 「社会保障の財源にふさわしい」などと、低所得者ほど負担が重い消費税増税を容認。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費税増税中止に全力をあげ、県民生活と中小企業・業者の営業を守る。
財政	<ul style="list-style-type: none"> 財政力指数は全国上位だが、大型開発や補助金ばらまきによる企業誘致優先。県道の補修や歩道の整備、老朽化した橋やトンネルの修繕などは後回し。 	<ul style="list-style-type: none"> 巨大開発の浪費をあらため、暮らしを支える財源をつくる。予算の重点は福祉、医療、教育に。
福祉 医療 子育て 教育	<ul style="list-style-type: none"> 「子育てサポート日本一」「医療・福祉日本一」とかかげているが、福祉の予算は全国最下位。老人ホームのベッド、医師や看護師の数、待機児童数など、全国ワーストクラス。 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代や高齢者の暮らしをささえ、消費にまわるお金をふやす。 30人学級の実現、中学3年までの医療費完全無料化、介護負担の減免、国保料の1世帯1万円引き下げなど。
TPP	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県農業を壊滅させるTPP参加には、「政府が責任をもって判断するもの」と、反対を表明するという願いに応えず。 	<ul style="list-style-type: none"> TPP参加に反対し、県の基幹産業である農林漁業を応援する。

一切出席しないという有様です。語るべきものがないという証明でしょう。

真面目にやる気のない知事には、退場してもらいましょう。「明るい会」三輪定宣さんへの支持は、直に接した方、対話をした方々には確実に広がっています。しかし一方で、「知事選挙があることも知らない」という仲間が少なくないのも実態です。

知事選挙のことや、争点を知らせ、「明るい会」三輪定宣さんの魅力と情熱を広げに広げ「今度こそ知事を替え、全国に胸を張れる県民が大切にされる千葉県」の実現に向け、千葉労連の総力をあげて奮闘しましょう。

各団体の主張

千葉土建

県として「公契約条例」を制定し、下請け業者・職人の賃金を県内の他産業と同等にすること。「住宅リフォーム助成制度」「小規模工事の発注制度」の創設や分離・分割発注を積極的におこない、税金を地元業者・住民へ還元すること。中小建設業者のくらしと営業を守り、要求実現のために勝利を。

全教千葉

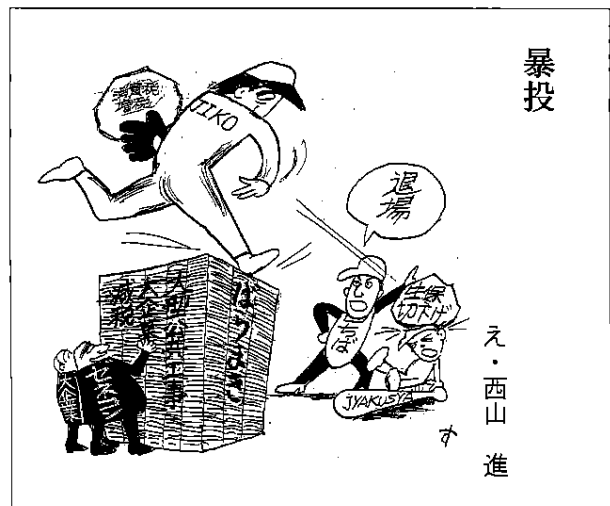
いじめ問題の解決、「道德教育」強化の転換、30 人学級の実施、正規教職員の増、教育費父母負担軽減、私学助成拡充、給付制奨学金制度の実現、学校の耐震化、災害・放射能汚染対策などの要求を実現させ、一人ひとりの子どもが大事にされる学校づくりをすすめるためにも、三輪さんの勝利を！

千葉県医労連

千葉県の医師・看護師、病院のベッド数は全国最下位クラス。それなのにこれまでの県知事は、県としての看護師養成数を減らしたり、全国一安い奨学金の改善もしてこなかった。責任が何処にあるかは明々白白。千葉県知事を替えるたたかいは、医療・介護の職場を変えるたたかい。三輪さんの勝利に向けて全力をあげたい。

福祉も含めて暮らしが立ち行く、そういう賃金水準に持っていかないと、この不況は打開できないと思います。

今年には爆弾低気圧の影響で関東地方も雪が多く、交通機関は大混乱した。二十四節気では、2月18日は雪解けが始まり、春の気配に草木が蘇るという意味の「雨水」 3月5日は、土の中で冬ごもりをしていた虫が穴を開いて活動しだすという「啓蟄」が訪れる。日差しも徐々に暖かくなり、芽が張(は)る、天候が晴(は)る、春(はる)という言葉は、希望にあふれる季節の象徴だ 全国4位の財政力を持ちながら、暮らしは全国最低レベルの千葉県。いよいよ3月17日は、人が輝く県政に転換する一歩を踏み出す知事選挙だ。私たちの明るい未来のため、新しい千葉県をつくるため...勝利の大きな花を咲かせよう。



【2 面】

事実上の一騎打ち 必勝の決意を広げよう

明るい会 県民総決起集会

応援ソングを全員で

県知事選で勝利をめざす「憲法がいきる明るい千葉県をつくる会」は 2 月 8 日、千葉市の京葉銀行文化プラザの会場を参加者でいっぱいにし、三輪さんのスライド紹介など工夫をこらした楽しく熱気にあふれた県民総決起集会を開きました。

会の河野泉代表は三輪さんの誠実な人柄と候補者としての意欲的な言動に応え、勝利するまで全力でがんばりましょうと挨拶。三輪さん応援ソング「あらたな日本へ」を会場全体で合唱し、着ぐるみの若者に囲まれて三輪さんが登場すると、会場は大きな拍手につつまれました。



参加者の拍手に応える三輪定宣県知事候補

各界から三輪定宣新知事待望の声

続いて、教育、学者・文化人、医療、青年、放射能から子どもを守るネットワークや教え子などが、県政を批判し三輪さんへの期待を表明。農民連の森吉氏は「森田知事は T P P への態度を明らかにしていない。三輪知事の実現で参加を阻止し、地産地消を進めて農村再生につなげたい」と訴えました。

三輪さんは県政の研究者

「明るい会」事務局長の松本悟千葉労連議長は、森田知事が財界本位で県民生活への視点がないことを批判。いっぽう、三輪さんの人柄と実績を「県民をだまして当選した森田知事の政治資金を追及する会の代表としての活躍」「教育の専門家として 30 人学級実現や戦争賛美の教科書不採択運動の先頭に立ち、子どもの入院医療費助成を母親らとともに中学 3 年生まで拡大」「千葉県自治体問題研究所の理事長を 20 年努めて県政の歴史と現状に深い見識を持っている」と紹介。新知事の誕生に力を結集し支持を広げようと訴えました。

支持を大きく広げよう

立候補を表明して以来、三輪さんが懇談した団体や行った現地調査は百件を超えています。その経験をもとに「改めて県政は何をするべきか分かってきた」とのべ、「県政を変える一点で共同すれば、必ず鉛筆 1 本から奇跡は起こる。その確信のもとに先頭に立ちます」と訴えました。

最後に千葉土建本部須木委員長の音頭でがんばろうを三唱し、勝利をめざして奮闘することを誓い合いました。

平和的生存権の確保を

第 39 回千葉県自治体学校

第 39 回千葉県自治体学校が 2 月 3 日、千葉市内で開催されました。

主催者を代表して田口正巳学校長（県自治体問題研究所理事長）は、今年の総選挙結果を「小選挙区制」の矛盾・危険性が明らかになるとともに、「戦後民主主義終焉の始まり」を危惧させる政治地図が誕生したと指摘し、民意を反映しにくい現行制度の見直しは当然のこと、メディアなどの多用な仕掛けに対峙して情報を収集・選別し、評価し判断する「学習の日常化」の 1 つとして自治体学校の重要性を強調しました。

午前の全体会では川鍋正敏（立教大学名誉教授）さんから「総選挙後の情勢と日本の進路」と題して

記念講演がありました。川鍋先生は、選挙結果を受けて右傾化、右派勢力の伸張、改憲の動きをとらえて、「指導者原理」・ヒトラー的人物登場への渴望は、1929年世界大恐慌・30年代不況期と酷似していると指摘したうえで、憲法の平和的生存権の確保を基本にすえた共同の運動が求められていると強調しました。

午後からは「医療・介護」、「学校給食」、「教育」、「防災・災害対策」、「地域の活性化」、「原発・平和」の6つの分科会に分かれて熱心な討論が行われました。参加者からは、「参加者が少なかったが、元気が出ました」などの感想が寄せられました。

労働相談 1 ヶ月 ～ ちば派遣村相談会場にて～

12月26日ちば派遣村。冷たい強風が吹きつける相談テントに一人の年配者が入る。仕事を紹介するという。話を聴くと、16万円の賃金が5万円に下げられた。仕事をしないと生活ができないと話す。詳しく聞くと、役所の仕事(委託)をしていたが、入札で受注できず仕事がないので11万円減額されたという。年齢は70歳代で一人暮らし。とても生活できないから仕事を探している。どこか紹介してもらえないか、歩いていて相談テントを見つけたと言う。

仕事の紹介は難しいが、どうしても生活できないなら高齢でもあり生活保護を受ける事を考えてはと話す。まだ体が動く、役所の世話にはなりたくない、紹介してもらえないならいいやという。歯は全部なく、足も痛みがあるという。無理しないで役所の世話になる事を考えてはと再三勧めるが、頑なに世話にはなりたくないという。役所の仕事が取ればこんな思いはしなくてすんだのにとぼやく。電話番号入りの派遣村のチラシを渡し、困ったら早めに電話するよう念を押して送り出す。

役所が労働者の貧困を作り出していることに思いをめぐらす。役所発注の委託事業を入札で安さを競わせ、安ければ何でもよいという安易な考えが横行している。受注に失敗したという形で役所が仕事を奪い、労働者の生活を破綻させ、生活保護でしか暮らせない状態に追い込んでいることに疑問を感じる。役所が労働者の貧困を作り出している。

行政が発注する委託事業は、公契約条例を制定して労働者の賃金を適正に計上させることや、安全衛生活動、労働契約の明示をはじめ、法を遵守しているか否かを総合判断して業者を選定するなど、入札のあり方の改善が求められている。

行政施策の改善は、トップが指示する事で解決する。派遣村のテントの中で相談に聞き入る三輪先生にこそ県政を任せられると思った。【中林】